

(3)「天神橋6丁目」周辺

(イ)「天神橋6丁目駅」

・大阪メトロの堺筋線と谷町線および阪急千里線の3路線が乗り入れており、大阪メトロ堺筋線と阪急千里線は相互直通運転をおこなっている。

・大正14年(1925)10月に 新京阪鉄道(現・阪急千里線)が大阪側のターミナルとして「天神橋駅」を都島通の北側に高架駅として設置したのが始まりとなる。駅の名は当時の町名である「天神橋筋」を端折って名付けられた。

翌年には、日本におけるターミナルビルの先駆けとして、地上7階建ての駅ビルが完成し、3・4階には「新京阪マーケット」が入り、5・6階に新京阪の本社、7階に新京阪会館と北大阪俱樂部が設けられていた。(プラットホームはビルの2階部にあった。)



・昭和44年(1969)12月、地下鉄・堺筋線の天神橋筋6丁目駅～動物園前駅間が開業して、「天神橋筋6丁目駅」が新設され、阪急線との相互直通運転が開始されたことに伴って、阪急・天神橋駅は地下駅の天神橋筋6丁目駅に移転・改称されて阪急線と地下鉄堺筋線の共同使用駅となった。

この後も、阪急電鉄のターミナルビルは、外面をレンガタイル貼りに改装され、「天六阪急ビル」として存続し、「阪急ファミリーストア」が営業していたが、平成22年に解体されて跡地には超高層マンション「ジオタワー天六」(平成25年3月築。地上44階・地下1階建て)が建っている。

・昭和49年5月には、地下鉄・谷町筋線の東梅田駅～都島駅間が延伸され、同線の乗換駅となった。(昭和42年3月、谷町線の東梅田駅～谷町四丁目駅間が開通。)

・駅ホームは、地下3階と同4階の2層になっており、上層の東西方向に谷町線のホーム、下層の南北方向に堺筋線および阪急電鉄のホームがある。ホームはいずれも島式1面2線方式で、改札口は、地下1階に北と東の改札口、地下2階に南改札口があり、両ホームは地下2階の連絡通路で結ばれている。

「天六ガス爆発事故」

・昭和45年(1970)4月8日夕刻、谷町線天神橋筋六丁目駅工事現場でガス爆発事故が起り、死者79名、重軽傷者420名の大惨事となった。家屋の被害は全半焼が26戸、爆風を受けての損壊336戸、爆風でドアや窓ガラスが壊れた近隣家屋は1,000戸以上とされる。

・事故は、地下に露出した都市ガス用中圧管と低圧管の水取器の継手部分が抜けたことから、都市ガスが噴出し、大阪ガスの事故処理班が現場に出動したが、そのうちのパトロールカーが現場でエンストを起こし、エンジンを再始動するためにセルモーターを回したところ、その火花が漏れ出した都市ガスに引火して炎上した。ガス漏れや炎上騒ぎを聞きつけて大勢の通勤客や地元住民が集まる中で大爆発が起こり、敷設されていた約1,500枚の覆工板もろとも爆風で吹き飛ばされ、大惨事となった。

・この事故の影響で、谷町線の東梅田～都島間の工事が大幅に遅れて4年後の昭和49年5月に開通したが、「掘削により周囲が露出することとなった導管の防護」と危急の場合のガス遮断措置が法令で定められ、その後の道路工事における安全化が図られた。

「阪神電気鉄道北大阪線」

・大正3年(1914)5月に、新淀川沿岸における未開発地域を開発する目的で、野田～中津～天神橋筋6丁目(天六)間に敷設(路面併用軌道)され、開業した。

天神橋筋6丁目駅は交差点の西北部に路上プラットホームとして設置された。

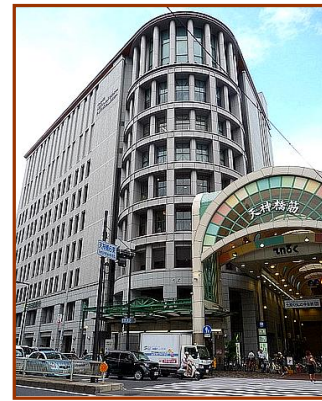
昭和2年(1927)7月には、野田～東神戸間の「阪神国道線」が開通し、天六と神戸が路面電車で結ばれていた。

・その後のモータリゼーションの進化と低速運転による渋滞への影響もあって、昭和50年(1975)5月に阪神国道線とともに廃止された。

(ロ)「大阪市立住まい情報センター」(「大阪くらしの今昔館」)

北区天神橋6丁目4

・大阪の住まいに関する総合情報拠点として平成11年11月に大阪市立住まい情報センタービル(地上10階・地下1階建て)の3～5階および8～10階に開設された。
・4階に住宅や住まいに関する相談や大阪市の住宅に関する情報を一元化した「住情報プラザ」があり、8～10階に住まいのミュージアム「大阪くらしの今昔館」が置かれている。
また、3階のホールと5階の研修室では住まいに関するシンポジウム等が開催されている。



「大阪市立住まいのミュージアム」(大阪くらしの今昔館)

・”住まい”をテーマとした日本初の専門博物館で、「住まいと暮らし」を主題として、大阪の都市居住に関する歴史と文化を体験できるミュージアムで平成13年4月に開館した。
・9階の〈なにわ町家の歳時記〉では、江戸時代・天保期(1830年代)の大坂の町家と町並みを実物大で復元するとともに家具・調度を置いて当時の暮らしを再現しており、10階の展望室から一望できる。
8階の〈モダン大阪パノラマ遊覧〉では、近代から現代への住まいの近代化と市民生活の移り変わりが体験できるよう、明治から戦後にかけての大阪を代表する住宅地を再現した「住まいの大阪六景」を中心にルナパークや心齋橋商店街などの模型が展示されている。

「市立北市民館」

・ビルの東半分には、大正10年(1921)6月、わが国初の公立隣保館として設立された「市立北市民館」(当初は「市立市民館」)があったが、昭和57年末に閉館となった。かつて、この北側にはスラム街が広がり、その福祉事業を担う場として設立され、その後は市民の文化教室などが開かれていたが、老朽化もあり取壊された。当時では珍しい鉄筋コンクリート4階建てで、外壁にツタが絡まるビルとして親しまれた。住まい情報センタービルの1階に、北市民館の模型が展示されている。

(ハ)「大阪市立北斎場」

北区長柄西1丁目7

・明治9年(1876)に民営の火葬場「長柄葬儀所」として設立されたが、同40年に公共性の観点から大阪市が民営の火葬場4ヶ所を買収し市営火葬場とした。その後、「長柄斎場」に改められ、昭和18年(1943)に「北斎場」と改称された。



・平成13年に施設の老朽化と環境問題から全面改修され、周辺が住宅密集地帯であることから、都市型火葬場らしく外観は火葬場とは思えない近代的な設備となっている。台車式火葬炉20基を備え、4階建て建物には2階の炉前ホールと中式場2室・小式場1室がある。

(ニ)「市営北霊園(長柄墓地)」

・明治7年(1874)に設置された明治新設3墓地(他に、阿倍野・岩崎新田〈現存せず〉)の一つで、かつて天六の現・大阪くらしの今昔館や阪急オアシス付近にあった”大阪七墓”のひとつである「葎原墓地」が明治初年に廃止された代替として設けられた。かつては、もと関西大学天六キャンパスもその敷地であったが、都市化の進展により現在では約2/5の規模に縮小されている。
・かつて葎原墓地にあった行基菩薩開墓地碑、同座像および「南無阿弥陀仏」の6文字が刻印された無縁合葬の碑が移設されて残っている。

(ホ)もと「関西大学天六キャンパス」 北区長柄西1丁目3

・明治39年(1906)に設置された福島学舎が東海道本線拡幅のため立ち退きを迫られたため、昭和4年(1929)9月、この地に新学舎が建設され、専門部・関西甲種商業(関西大学第一中学校・高等学校の前身で大正2年に開校)・第二商業が移転してきた。

・昭和22年(1947)の学制改革により、新製の「関西大学第一中学校」と「関西大学附属第一高等学校」(現「関西大学第一高等学校」)が設立されてこの地にあったが、昭和28年に千里山に移転した。

・昭和10年から昭和40年までは大学本部が置かれ、平成5年までは法学部や商学部などの第2部(夜間部)の学舎として使用されていたが、第2部も平成6年4月に千里山に移転した。

・その後、都心のキャンパスとして市民対象の公開講座などに活用されていたが、平成26年9月に閉鎖されて、跡地には北側に大型マンション「プランズシティ天神橋6丁目」と南側に高層タワーマンション「ジオ天六ツインタワーズ」が建てられており、ツインタワーズの敷地内に「関西大学天六キャンパス跡地 記念碑」が置かれている。

なお、昭和19年開校の「関西工業専門学校」もこの地にあったが、昭和26年3月に廃校となっている。



「プランズシティ天神橋6丁目」

・平成29年2月竣工の15階建て分譲・賃貸マンションで、全420戸。

「ジオ天六ツインタワーズ」

・平成30年2月竣工の23階建て分譲タワーマンションが2棟あり、全358戸。

(ハ)「行岡病院」

北区浮田2丁目2

・昭和9年(1934)10月、「大阪整骨学校附属行岡外科病院」として設立され、昭和25年に「行岡病院」と改称された。

17診療科、347床を有する総合病院で、回復期リハビリテーション病棟を備えるリハビリテーション総合承認施設であり、救急・労災指定病院にも指定されている。

・近くに、看護師・歯科衛生士を養成する「行岡医学技術専門学校」、鍼灸師・整復師・診療放射線技師・臨床検査技師を養成する「大阪行岡医学技術専門学校 長柄校」がある。

(ト)「加納総合病院」

北区天神橋7丁目5

・昭和28年(1953)8月に天神橋6丁目目で「加納病院」として開院し、昭和43年10月に現在地に移設、平成19年に「加納総合病院」と名称変更された。

28診療科、300床を有する総合病院で、救急センター・脳卒中センター・消化器病センター・デイケアセンター・透析センター・健康管理センター(人間ドック)を有し、「地域連携室」では地域医療にも注力している。

(チ)「長柄国分寺」

北区国分寺1丁目6

・寺伝によれば、大化元年(645)末に孝徳天皇が難波長柄豊碕宮を造営されるも、次代の斉明天皇が飛鳥板蓋宮へ遷都されたあと、日本法相宗の祖・道昭が斉明天皇の勅を請けて先帝の菩提を弔うため、旧宮址の一角に建てた「長柄寺」を起源とする。

その後、天平13年(741)に聖武天皇が一国一寺の「国分寺建立の詔」を公布されたため、長柄寺が「摂津国之国分寺」に定められ、「長柄の国分寺」と称された。以降、歴代天皇十四帝の勅願道場として由緒ある法灯を伝燈してきている。

・『摂津名所図会』(寛政10年[1798]刊)にも、「*國分寺村にあり。正國山金剛院と號す。眞言律宗。*本尊:阿彌陀佛 聖徳太子御作。坐像三尺五寸計り。*赤不動尊 弘法大師作。初めは高野山に安置しけるなり *當寺は国毎の国分寺の其一箇寺にして、本願は聖武帝、開基は行基僧正なり。荒蕪の後、快圓比丘中興して律院となる。…」とある。

・昭和20年の大阪大空襲で、旧書院門(現・山門)を残して灰燼に帰し、境内地を大幅に縮小するも、昭和22年には眞言宗国分寺派本山となって独立し、昭和40年に昭和金堂が落慶、昭和59年の弘法大師千百五十年御遠忌の頃に現在の姿となった。

現在、境内には、昭和金堂・護摩堂・靈明殿・鐘楼・山門が配備され、天六ガス爆発慰霊堂も置かれている。

(リ)「鶴満寺(カクマンジ)」

北区長柄東1丁目3

- ・奈良時代に大和で創建と伝えられ、宝暦3年(1753)に当地に移設されて京の真如堂を模した七堂伽藍を構えた。阿弥陀如来を本尊とする天台真盛宗(シンセイシュウ)の寺院。
- ・安政年間(1854~60)の『浪花百景』にも掲載されている。
- ・昭和8年(1933)再建の観音堂は八角塔楼閣付きのお堂で、西国三十三所ほか100体の観音像が祀られており、“百体観音堂”とも称される。鐘楼の銅鐘(朝鮮鐘)には太平10年(1030)の銘があり、境内に大岡越前守が寄進した石灯籠がある。

(ヌ)「長柄八幡宮」

北区長柄中3丁目3

- ・永仁4年(1296)に石清水八幡宮(男山八幡宮)から神体を勧請して祀ったのが起源とされ、慶長15年(1610)に片桐且元が本殿・幣殿・拝殿を改築しており、最新では昭和40年10月に社殿の立替えが行われた。
- ・主祭神は八幡大神(応神天皇・比咩大神・神宮皇后の三柱)で、相殿に大己貴(オオナムチ)大神と少彦名大神が祀られている。
- ・夏祭り(7月)と秋祭り(10月)には、境内の専用櫓で摂州地車囃子(ダンジリハタシ)が奉納され、夏祭りでは、浪速獅子舞が氏地を廻っている。

(ル)「リバーサイドながら」

北区長柄東3丁目2

636

- ・もと「大阪毛織・長柄工場」および「東洋紡績・大阪染色工場宿舎」の跡地に開発されたUR都市機構の大型賃貸マンション団地。
- ・昭和54年1月築の9~14階建て5棟・全622戸および昭和55年3月築の4階建て2棟・全40戸の計7棟が並ぶ。

(ヲ)もと「本州製紙・淀川工場」跡地

北区長柄東2丁目1・2

現「淀川リバーサイドタウン・さざなみプラザ」

- ・明治39年創立の「東洋製紙」・煙草紙製造工場として、同41年(1908)に設けられた。その後、王子製紙に合併され、昭和24年8月に「本州製紙・淀川工場」となったが、昭和50年(1975)3月、同社の滋賀工場が新設されたことに伴って操業停止となり、翌51年6月に全面撤去された。
- ・その跡地を含めた周辺区域について、高層マンション団地の「淀川リバーサイドタウン」として再開発されており、一画には児童数増に伴って市立中学校も新設されている。

④「淀川リバーサイドタウン」…長柄東1・2丁目、国分寺1丁目の一帯約35.6ヘクタール

- ・工業地域から住居地域に指定変更して再開発を行い、職住近接の住宅地区に整備。
- ・計画人口= 約1万人(世帯数=3230世帯)。昭和57年(1982)7月入居開始
住宅地: 16.45ha(46.2%)、公園: 9.35ha(26.3%)、道路: 7.6ha(21.3%)、教育施設: 1.7ha(4.8%)、その他: 0.5ha(1.4%)

「淀川リバーサイドタウン・さざなみプラザ(第1) 北区長柄東2丁目1

- ・本州製紙工場跡地の東半分につくUR都市機構の賃貸(一部分譲)マンション。
4棟(21~24号)、全423戸(22号棟=昭和57年11月・築。14階建て・88戸)

「市立新豊崎中学校」

北区長柄東2丁目2

- ・昭和57年4月、上記工場跡地の西部分に新設された。
(高層マンションの開発に伴う生徒増により、豊崎中学校の校区東部を分離して開設)

(4)「天満堀川」について

- ・慶長3年(1598)に、堂島川の「難波橋」北詰の少し東側(中之島の「ばらぞの橋」の向い側)から北へ開削された堀川。当初は現在の「扇町公園」北側付近までであったが、大塩平八郎の乱で天満が壊滅的な被害を受けたあと、窮民救済を兼ねて、天保9年(1838)に東方向に流れを替えて延伸され、大川(「都島橋」下流側)と結ばれたことで、水運の便が向上するとともに流れが良くなって停留していたゴミも少なくなった。
- ・天満地区を南北に貫通しており、堀川を境に「東天満」と「西天満」に分けられている。

・堀川には南(大川側)から、「太平橋」・「樋之上橋」・「樽屋橋」・「天神小橋」・「堀川橋」・「寺町橋」が架かり、さらに延長された部分には、「綿屋橋」・「梅ヶ枝橋」・「扇橋」・「夫婦橋」・「樋之口橋」が架かっていた。

・最下流(堂島川側)に架かっていた「太平橋」と天神橋筋4丁目付近にあった「夫婦(メト)橋」の欄干が付近に保存されており、樋之上橋が「樋之上町*」、樽屋橋が「樽屋町*」、綿屋橋が「綿屋町*」、梅ヶ枝橋が「梅ヶ枝町*」、扇橋が「扇町」、夫婦橋が「夫婦町*」、樋之口橋が「樋之口町」と、それぞれ橋の名が町名の由来になっている。

(注) * 印は、明治時代事前にあった町名)

・昭和43年(1968)に埋め立てられ、跡地の上に「阪神高速12号守口線」(昭和43年5月建設)が建設されている。

(5)「扇町」周辺

(イ)「扇町公園」

・江戸時代、この地には備前岡山藩の蔵屋敷があったが、明治15年(1882)12月に「堀川監獄」(のち「大阪監獄」)が設置された。明治28年に城東線(玉造駅～大阪駅間)が開通して天満駅が設置されると、この辺り一帯が急速に市街化したことから監獄の移転が検討され、大正9年(1920)6月に堺市に移設された。その跡地が整備され、大正12年12月に開園したのが、「扇町公園」である。

「大阪プール」

・昭和25年(1950)7月、公園内に「大阪プール」が設置され、開場記念として開催された日米豪国際水泳選手権では「フジヤマ！トビウオ！！」の大声援が飛び交った。50m競泳プールは、9コース(幅25m)・水深1.5～2mで、飛込用プールも付設された。・ナイター照明も設置され、約2万2千人収容のU字型の巨大な観客席を備えており、水泳競技大会だけでなく、ボクシングの世界フライ級選手権試合(昭和34年)やルー・テーズvs力道山のNWA世界ヘビー級選手権試合(昭和32年)等も開催された。・施設の老朽化に加え、平成9年の国民体育大会(なみはや国体)の開催に備えて、港区の大阪国際見本市港会場跡地(現・八幡屋公園)に新プールが建設されて移転し、併設されていた「扇町プール」(25mプール・トレーニングルームと屋外プール)が現存している。また、もと大阪プールにあったスタート台(飛び込み台)が記念モニュメントとして公園内に残されている。

(ロ)「北区役所」

北区扇町2丁目1

・平成元年に旧・大淀区が北区に合区された時に、6階建ての新庁舎が建てられ、曽根崎から移転してきた。

東側に隣接して2階建ての「北区民センター」が同時期に建設されており、2階は収容人員1,000人の「区民ホール」になっている。

・この地には「市立北会館」があり、その前には「大阪市立衛生研究所」があった。

「市立北会館」

・昭和53年(1978)11月、天王寺区へ移転した市立衛生研究所の跡地に開館したもので、現在は「北区民センター」(上記)に生まれ変わっている。

「大阪市立衛生研究所」

・明治39年(1906)、「市立大阪衛生試験所」として西区に設立され、大正12年(1923)、当地に移転してきた。昭和25年には「市立衛生研究所」と改称され、昭和49年12月に天王寺区東上町へ移転した。(現在は、「健康安全基盤研究所」に組織替えされた。)

(ハ)「関西テレビ放送」と「キッズプラザ大阪」 北区扇町2丁目1

・平成9年6月、北区役所の南側でもと「大阪市立工業研究所」の跡地に、地上13階・地下1階建ての「扇町キッズパーク」(現・カンテレ扇町スクエア)として竣工した複合施設で、ビル内に「関西テレビ放送・本社」と「キッズプラザ大阪」がある。

・ブロックを積み重ねたような形が特徴的で、中層階から上部は青色のミラーガラスで囲

われ、空を映し出している。

「関西テレビ放送・本社」

・昭和33年(1958)11月に近畿地方で3局目の民放テレビ局として開局され、フジテレビをキー局に8チャンネルでの放送を行っている。

平成9年10月、西天満6丁目から本社を移転し、同ビルにスタジオも設置している。

「キッズプラザ大阪」

・平成9年7月、子ども達が遊び体験を通して身近なことに新鮮な発見や驚きを感じることが出来る”こども博物館”として開館した。

同ビルの1・3・4・5階に施設があり、大阪市教育振興公社が事業主体になっている。

「大阪市立工業研究所」

・大正5年(1916)9月、工業の科学的研究と工業技術の高度化を図る目的で大阪駅北側に設立されたが、その地が大阪駅拡張用地にされたため、大正12年5月、当地に移転してきたものであるが、昭和57年4月に森之宮へ移転した。。



「北区役所」(左)と「扇町キッズパーク」(右)

(二)「読売新聞大阪本社」

北区野崎町5

・平成6年12月に地上13階・地下2階建ての「読売大阪ビル」が新築され、北東向いにあった旧本社ビルから本社機能を移転した。

同ビルには、読売新聞グループの「報知新聞社」大阪本社や読売旅行社も入っており、ビル1階には読売ジャイアンツグッズ専門店の「YGスタジアム」がある。

旧本社ビルは、「読売新聞大阪本社東館」として、編集・制作部門と印刷工場がある。

・昭和27年(0952)11月に第一号を創刊した読売新聞グループの完全子会社で、近畿・四国・中国の2府13県と三重県の一部を発行エリアにしている。

1970年代に入ってから、朝日・毎日・産経新聞といった大阪では老舗の全国紙と拡販競争を展開し、朝日・毎日を抜いて大阪管内の全国紙で発行部数1位になっている。

(ホ)「北野病院」

北区扇町2丁目4

・昭和3年(1928)2月に京都大学医学部に付属する臨床医学研究用として「北野病院」が開設され、平成13年9月、旧病院の北隣にあった旧扇町中学校の跡地を大阪市と土地交換して地上15階・地下3階建ての新病院を建設し移転した。

旧病院の跡地には、平成16年4月、「北天満小学校」(天六)と「済美小学校」(中崎)を合併して創立された「扇町小学校」が開校している。(平成19年4月には「大阪北小学校」も統合。)

・この辺りは大正9年に堺市へ移転したもと「大阪監獄(旧・堀川監獄)」の一画にあたり、その跡地であるこの地には、大正10年(1921)に「大阪市立高等女学校(のち市立扇町高等女学校)」が校舎を新設して移転してきたが、昭和20年の大空襲で全焼し移転した。その跡地に、昭和25年、「扇町中学校」の校舎が新設されていたが、後記の通り、平成



7年に菅南中学校と統合されて「天満中学校」となり、平成9年に空地となったものである。
・初期診療センター(救急部・初期診療科)、呼吸器センター(呼吸器内科・呼吸器外科)、
消化器センター(消化器内科・消化器外科)、神経センター(脳神経内科・脳神経外科)、
心臓センター(循環器内科・不整脈科・心臓血管外科)のほかほぼ全領域の診療科での
高度医療を目指し、699床の病床を有する急性期総合病院として知られている。

(ハ)「天満中学校」 北区神山町12

・平成7年4月、「市立菅南中学校」と「市立扇町中学校」を統合し、旧・扇町中学校を仮校舎として設立され、平成9年4月、旧・菅南中学校跡に建設された新校舎に移転した。
この後、旧・扇町中学校の跡地が上記の通り「北野病院」との間で土地交換が行われた。
・もとの地には、大正12年(1923)創立の「大阪市立扇町商業学校(現・扇町総合高等学校)」があったが、昭和19年(1944)に新設された「大阪市立医学専門学校(大阪市立大学・医学部の前身)」の校舎となり、その後「大阪市立大学理工学部・分校舎」となっていたが、杉本町に移転したあと、昭和43年4月に「菅南中学校」が移転してきた。

(ト)「網敷天神社」 北区神山町9

・社伝によれば、創建は平安時代とされる。摂州菟飯野に嵯峨天皇が行幸した縁により、皇子の源融が天皇崩御ののち、追悼のためこの地に七堂伽藍を興して「太融寺」を創建し、嵯峨天皇を祀る社として「神野太神宮」を併せて創建したとされる。後に菅原道真が大宰府左遷の折、この地で咲き匂っていた一本の紅梅を眺めるために、船の艫綱(トモヅナ)をたぐりよせて即席の座席としたとの故事が、「網敷(つなしき)」の名の由来とされる。
・正暦4年(993)、菅原道真に正一位太政大臣が追贈された時、神野太神宮の地に道真の神霊を勧請して社殿を建立し、嵯峨天皇を合祀して「北野(喜多埜)天神」と称されており、現在も「北野(喜多野、喜多埜)天神」の通称で呼ばれている。
・南北朝の戦乱に罹災して社殿・神宝等が焼失したが、寛正2年(1461)には、一夜にして七本の松が生い出てきたため、太融寺の僧がその旨を京都・北野天満宮へ告げたところ、”道真の霊験”であるとの勅旨を賜り、社殿を再建した。
・昭和20年の大阪大空襲で社殿その他一切が全焼したが、昭和31年(1956)に社殿も復興された。
・本殿の祭神として、嵯峨天皇と菅原道真公が祀られており、茶屋町に御旅社(「梅塚天神」)が、角田町には境外社として歯神社がある。

(チ)もと「大阪市水道局扇町庁舎」 北区南扇町6

・昭和9年(1934)に、大阪市水道局の本庁舎(5階建てビル)として建設された。
平成13年に水道局が大阪南港に移転し、その後もしばらく残置されていたが、老朽化により、平成22年に解体された。
・跡地については、南側用地を含めて一般公募が行われ、令和5年6月完成予定で、北側に9階建て、南側に15階建ての劇場・ホールを含む病院棟((仮称)「医誠会国際総合病院」)の建設工事が行われている。

(リ)もと「大阪天満高等学校」 北区南森町2丁目1

・昭和10年(1935)4月、「大阪工学校」として開校し、昭和23年に「大阪天満高等学校」に改編されたが、昭和34年4月に大東市の現校地に移設され、昭和37年、「太成高等学校」(現「太成学院大学高等学校」)と改称された。
・跡地の南部分には、昭和59年4月に「西日本歯科衛生学院専門学校(現「太成学院大学歯科衛生専門学校」)が開校しており、北部分には、平成27年10月竣工の15階建てマンション「ファインフラッツ南森町」ほか建っている。

昭和36年頃の天満北部地区マップ



昭和36年頃の天満南部・扇町周辺

